

ふるさと浪江 復興を願う

浪江町から本宮市に避難され、応急仮設住宅の自治会長を務めている3人の方に、震災当初の様子や現在の応急仮設住宅での生活について話を伺いました。

偶然にも同じ大堀地区の人が集まりました

■地震がおきた時の状況を教えてください

私の住んでいた地区にサイマックスヴィレッジという何でも体験する施設があり、私はスタッフとして働いていました。その日は東京からお客さんが来て、じゃがいもを植える体験活動をしていました。地震が起きてすぐ作業を切り上げ、施設に戻りました。

■避難の様子を教えてください

3月12日に防災無線で避難の指示が出ましたので、着の身着のまま避難しました。国道288号は通行止めで、双葉町、大熊町から避難する車で国道114号は大渋滞でした。会社の人を避難させなければならなかったのですが、私は職場に戻り、妻は妻の弟家族と避難することとなりました。私は会社の人を連れて、3月12日の午前7時30分ごろ津島地区にバスで避難しました。とにかく西に逃げろということで、どこになぜ避難しなければわかりませんでした。結果的に放射線の強いところに逃げてしまいました。その後、川俣高校の体育館から川俣町の廃校となった小島小学校に避難し、4月上旬に猪苗代町のペンションに避難して8月27日まで滞在しました。

■避難生活について教えてください

これまで避難生活は他人事でしたが、いざ自分の身になると、ひどいもので、食べ物にしても変化のないものでした。交流も輪も途絶え、隣組、部落も崩壊しました。

■原発事故についてどんな思いですか

実は私も原発で働いていました。地震後考えたことは、1万馬力のディーゼル発電機が各号機の建屋の地下にあったことが、事故を全く想定していなかったということになります。原子炉をつくる研究はしていましたが、壊れたときの想定をしていなかったということだと思います。大津波の襲来も想定外だったと思います。

■仮設住宅での生活について教えてください

仮設住宅は18戸ありますが、うち13戸に入居しています。浪江町は大きく6地区に分かれますが、偶然にもみな大堀地区の方で、何をしてもトラブルもなく仲良く生活しています。

■本宮市の印象はどうですか

私は仲間と地元の農家の農作業のお手伝いをして交流しています。若い時に白沢地区の近くを通ることがありましたが、ここに住むようになるとは思いませんでした。坂道が多いという印象がありますが、大きな公共施設が整っていると思います。また道路も整備されていますね。今は、浪江町の知り合いと二人で、白岩の畑を借りて野菜をつくるのを楽しみにしています。

■国・県に望むことはなんですか

誰しも思いは同じだと思いますが、早く除染・インフラ整備を進めて、浪江町に帰る道筋をつけていただきたいと思っています。



末永 喜男 さん
和石上1応急仮設自治会長
(浪江町井手)



大倉 満 さん
石神第1応急仮設住宅自治会長
(浪江町西台)

お客様の安全を第一に行動

■地震の時は何をしていましたか。

大熊町のJR大野駅で仕事でした。なかなか揺れが取まらないので、とにかくお客様の安全確保を最優先に、窓に近づかないよう大声で叫んでいました。お客様は全員無事でしたが、エレベーターは壊れ、待合室はめちゃくちゃで、駅西側の電柱が折れ、町中を見ると土蔵が壊れたりしているのがわかりました。

夜10時ごろ衛星回線の鉄道電話につながり、会社からは「自宅も心配だろうから帰っていい」と言われました。国道6号は通行止めで、通れるところを探して迂回しながら浪江の自宅まで普段は15分のところを2時間かけてようやく帰りました。

■ご自宅の被害はありましたか

大きな被害はありませんでしたが、余震のため、店を経営している弟の1ト

ントラックの荷台に家族皆寄り添って寝ていました。私は2時間くらい仮眠をとり、12日の朝、草刈り機からガンソンを抜いて車へ給油し職場に向かいました。

■12日朝のJR大野駅はどのような様子でしたか

朝5時10分ごろ大熊町役場に向かって観光バスが沢山行くのが見えました。修学旅行かなとながめていました。大熊町の防災無線放送は防災ヘリの音などで聞こえない状況でしたが、JRの社員が会社に連絡をとるため駅に来て「避難指示がでたので避難する」と言いに来ました。

それで初めて3キロメートル圏内は避難すると聞いて、沢山の観光バスが来た理由がわかりました。

■避難はどのようにされましたか

一度避難しましたが、私は水利組合の用事で3月13日に自宅に戻りました。それから3月20日まで、自宅にいました。3月17日には町中の公衆電話つながるか見て歩きました。また、その日には米軍の無人偵察機が300メートルから500メートルくらいの低空を飛んでいるのが見えました。

家族は3月12日に福島市へ、4月13日に岳温泉に避難しました。今、家族は仕事の関係でばらばらになりました。

■自治会の運営はどうですか

57戸のうち35戸が入居しています。小さい子どもがいるのは1戸だけです。あとは高齢者が多いです。うまくいっているほうだと思います。「ふるさと浪江踊り隊」をつくって踊りをとおして交流しています。日赤の事業で花いっぱい運動などにも取り組んでいます。

■今の要望は何ですか

生活の目鼻がたっていないです。計画を立てようにも、いつまでここにいないかならなければならぬか、はっきりしていませんし、自宅を復旧するための準備や、資材は足りるのか、支援はあるのかわかりません。これからは復興に大変な時期、傷はいえないと思います。

浪江町民の生活再建に向け 活動していきたい!!

■地震発生時の様子を教えてください

私は双葉と富岡で花屋を営んでおり、当日は双葉店にいました。地震が取り、浪江町の自宅に一人でいた父が心配で一度自宅に戻り、無事を確認しました。近くの親せきに父をお願いし、店に戻ると町内には人がおらず消防団員だけが残っていました。「みんなどこいったの?」と聞くと、避難したと言われびっくりしました。近くの小学校に行ってみると従業員や町民が多数避難していました。妻は富岡店にいたので連絡が取れず、夜中の2時頃自宅に戻ると妻と子どもが余震が多いため車中に毛布1枚でいました。翌朝、父と合流し南相馬市へ避難。ここは大丈夫だと思ったら、午後3時30分頃爆発音が聞こえました。原発から18キロの距離でしたが煙も見えました。夕方になり20キロ圏外に避難することになり原町区の体育館に移動、3月15日に2回目の爆発がありました。もう近くにいられないと思い、夜中に福島市の小学校へ、その翌日には伊達市の体育館へ移動しました。そこでタイベックススーツを着た方々にスクリーニング検査を受けてくださいと言われ、何か隔離されたようで、初めて大変なことになっていると感じました。その後、埼玉の知人宅に避難し、4月13日に第2避難所ができ猪苗代のホテルに移動して仮設住宅に移動する9月末までお世話になりました。

■震災後大きく変わったことは何ですか

家族が2人亡くなりました。父はわれわれに必死になってついてきたのですが、避難先のホテルで転倒し車イス状態になり「家に帰りたい。浪江…」と言い続け88歳で亡くなりました。また、震災当時、双葉病院に入院して避難先がわからなかった母は、手を尽くしようやく探し出し、4月に伊達市の病院で再会しました。しかし、震災前とはまったく異なり、3月11日から16日まで放置されたショックででしょうか、いわゆる植物状態になったのを目の当たりにして苦悩しましたが二年間頑張ったのちに亡くなりました。84歳でした。変わったことと言えば、私が浪江町議会議員になったことです。浪江町のためというより町民の将来へ方向性が見いだせるよう活動に取り組んでいます。

■自治会の活動について教えてください

仮設住宅の皆さんには、仮設住宅がひとつの行政区と思ってほしいと言っています。恵向には131世帯ありますが、入居当時は同じ町からの避難とは言っても全然知らない人が隣に住んでいるわけで、引きこもる年寄りも多く、殺伐とした雰囲気もありました。これではいけないと思い、高齢者のため花植えをすることになりました。東京のNPOに働きかけて募金活動をしたり、市場や資材屋さんの協力を得てプランター500セットを準備し、戸外に出て花の手入れなどを楽しんでいました。また、この頃はみんなでラジオ体操をしたり、パークゴルフなどをしたりしています。

■今の思いを教えてください

浪江町に戻れない状況はまだ続きます。帰町したい方もいますが、ここで自立したい人もいます。私たちの生活再建のため適切な賠償と支援が必要です。また、このたび本宮市長のご配慮でいち早く復興公営住宅が本宮市にもできると聞き、ひと安心しています。最後に市民の皆さんにお願いがあります。いくら賠償金をいただいても、ふるさとを追われる虚しさ、寂しさ、悲しさは埋めることができません。ぜひ、あったかい心で受け入れてください。今後ともご支援をお願いします。



平本 佳司 さん
恵向応急仮設住宅自治会長
(浪江町立野)